

環境モニタリングの結果等から、他の地域に比べ外部及び内部被ばく量が高い可能性がある地域（川俣町山木屋地区、飯館村、浪江町）や避難区域等の住民に対して、平成23年6月27日からホールボディカウンタによる内部被ばく検査を開始。順次対象地区を拡大し、平成27年1月31日までに24万2,974名を実施。セシウム134及び137による預託実効線量で99.9%以上が1ミリシーベルト未満、最大でも3.5ミリシーベルト未満であり、全員が健康に影響が及ぶ数値ではなかったとされている。

①対象自治体：福島県内全59市町村

②測定実施機関（実績）

福島県、弘前大学医学部附属病院、南相馬市立総合病院、日本原子力研究開発機構、新潟県放射線検査室、広島大学病院、長崎大学病院、大津赤十字病院、杜の都産業保健会、金沢医療センター、放射線医学総合研究所*（※平成23年のみ）

③ホールボディカウンタ車の巡回による県外での検査について

福島県では、県外に避難された方が受検できるようホールボディカウンタ車を巡回して検査を行っており、現在までに栃木県、山形県、秋田県、宮城県、岩手県、京都府、兵庫県、千葉県、神奈川県、東京都、埼玉県、群馬県、沖縄県、愛知県、長野県、静岡県、岐阜県、山梨県、北海道、岡山県で検査が実施された。（平成26年9月17日現在）

④測定結果（預託実効線量）（平成27年1月実施分まで：平成27年3月2日発表）

	平成23年6月27日～ 平成24年1月31日	平成24年2月1日～ 平成27年1月31日	合 計
1ミリシーベルト未満	15,384名	227,564名	242,948名
1ミリシーベルト	13名	1名	14名
2ミリシーベルト	10名	0名	10名
3ミリシーベルト	2名	0名	2名
合 計	15,409名	227,565名	242,974名

※預託実効線量：平成24年1月までは3月12日の1回摂取と仮定、2月以降は平成23年3月12日から検査日前日まで毎日均等な量を継続して日常的に経口摂取したと仮定して、体内から受けると思われる内部被ばく線量について、成人で50年間、子どもで70歳までの線量を合計したものを。

福島県ホームページ「ホールボディカウンタによる内部被ばく検査 検査の結果について」より作成

環境モニタリングの結果などから、他の地域に比べ外部及び内部被ばく量が高い可能性がある地域（川俣町山木屋地区、飯館村、浪江町）や避難区域などの住民を対象として、2011（平成23）年6月27日からホールボディカウンタ（WBC）による内部被ばく検査が開始されました。対象地区は順次拡大され、2015（平成27）年1月31日までに24万2,974名に検査が実施されています。セシウム134及び137による預託実効線量で99.9%以上が1ミリシーベルト未満、最大でも3.5ミリシーベルト未満であり、全員が健康に影響が及ぶ数値ではなかったとされています。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2014年3月31日

：2015年3月31日

本情報は事故当時（2011年）～2014年までの情報です。

関連Q&A

- ・1章 QA10 内部被ばくの場合の線量である預託実効線量とはなんですか
- ・1章 QA20 ホールボディカウンタによる内部被ばく線量の評価方法について教えてください